

## 第4回総合計画審議会のまとめ

### 世代間交流をどう進めるか ～高齢者のみの世帯の増加～

- 日常生活の利便性の改善、高齢者の移動手段確保
  - ・アンケートで「移転したい理由」として多く挙げられたのが「日常生活が不便」「交通が不便」などとなっている。ここを改善し、高齢者に外に出て交流してもらうには、一步踏み出すための「足」が必要なのでは。
  - ・日常生活が不便とは「買い物が不便」であることや、例えば高齢者のサロンに行くにしても移動のための足がないということかと思う。免許を返納した方は、車もなくバスの本数も少ないなど、移動手段の問題が大きい。

#### 高齢者の就労、生きがいづくり

- ・シルバー人材センターを活用して、毎日ではなく週に何回か働くなど、短期・軽作業的なニーズをとらえ、もう一步進めた形で労働力の需要と供給をマッチさせていくべき。数万円でも収入があれば高齢者も元気になるし、生きがいに繋がる。雇用の確保、生きがいづくりなど、結果的に医療費削減にもつながるのではないか。
- 高齢者による子どもの見守り・預かり、世代間交流
  - ・資料4では、小さい子どもが安心して外遊びができるようにや、子ども・お年寄り食堂など、子育て世帯への支援の要望も多く出ている。例えば放課後の公園や学校で、高齢者に有償ボランティアなど収入を得られる形で見守り活動をやってもらったり、さらに進めて高齢者による学童保育のような誰でも子どもを預けられる場ができれば、高齢者と子どもなど世代間交流も進むのではないか。

#### 元気な高齢者による農業支援

- ・元気な高齢者がたくさんいる。本当は若い人が後継者になればいいが、それまでのつなぎでも元気な高齢者を農業に活用できれば。そうすることで農家との交流にもつながる。

### 空家をまちづくりにどう活用するか ～空き家率の増加～

#### 町内空き家の現状

- ・宮代町は全国よりも速いスピードで空き家が増加しているものの、空き家の中でも「その他住宅」が減っているのは重要なデータである。
- ・以前は下宿している日工大生が多かったが、最近は遠くても通学している学生が多い。空いているのは学生以外は住まない様なワンルームの賃貸物件が多い。
- ・学生は町内にアルバイトなどの雇用の場がないため、春日部など他市に行ってしまう。これが学生用のアパートが空いてしまっている要因となっているように思う。

### 空き家所有者情報の把握・共有化

- ・空き家の所有者情報について取りまとめてくれる相談窓口やシステムがあれば、今後引っ越して来る方も安心ではないか。空き家は防犯の面でも不安がある。
- ・例えば空き家になることを事前に行政等に伝え、その情報をつなげていく。何らかの機会を捉えて行政から住民にアナウンスしてもらえると、今後家を持つ若い世代にも先々の問題として認識してもらえと思う。
- ・空き家の所有者情報を町内会、自治会を活用して共有していくことで、世代間、新旧住民の交流にもつながるかもしれない。

### ○空き家の利活用支援

- ・他の自治体では、ゴミ処理の無料引き受け、家財処分の手伝い、リフォーム支援などをきっかけに、「その他住宅」の状態の解消につなげている事例がある。
- ・賃貸用住宅のオーナーを対象に、空き家住宅についての課題や今後の意向を把握するためのアンケートを実施すれば、詳しい状況が見えてくるのではないか。

### Uターン支援

- ・転入者調査の結果によると、以前住んだことがあるという方は50代が多い。町に住んでいた経験のある人たちのUターンを促すような政策が必要ではないか。例えば50代をターゲットにしたUターン促進策やシステムを考えてはどうか。
- ・昭和40年代に造成された住宅団地である学園台、宮代台、桃山台など、高齢化率が高くなっていて空き家率も高いようだ。そういった地区に若い世代が戻ってこられるように、リフォーム支援等の施策は考えられるかもしれない。

### ○住宅以外の空き家利活用支援

- ・家作については地区年数が古く非水洗トイレで借り手も付きにくいようだが、子育て中のお母さんが家作を改修してカフェをやっているような事例もあり、空き家の住居以外の活用についても可能性はあると思われる。
- ・空き家をカフェや飲食店に改装できるような行政からの支援やシステムがあると空き家の対策としての窓口が広がる。例えば脱サラして町に戻ってきた人が実家を改装し、店舗として商売ができるような仕組み。高齢者の世代間交流にも関わってくるが、空き家を高齢者サロンなどとして活用していくなど、きっかけになるのではないか。
- ・住宅を住宅以外の用途に転用するのは一般の人には難しい。行政、大学、商工関係などによる起業支援など、何らかの背中を押すシステムができれば可能性が広がると感じる。

### 遊休農地と空き家をセットで

- ・家作が農家の持つ物件なのだとすれば、空き家と有休農地をセットにした売り出し方をすると、他地域に居住する人が週末こちらに来て農業をするような、二地域居住を推進する活用ができるのではないか。

### 空き家で体験居住

- ・宮代に住みたい人に体験で住むために空き家を活用するということはできないか。北海道の自治体では冬の寒さを体験してもらうために官舎を活用しているので、同じようなことができれば面白いのではないか。

- ・体験居住については、誰がどうやってやるのかという課題はあるが、良いアイデアだと思う。民間がやってもよいのかもしれない。
- ・体験居住について、最初は行政が入って借り上げるが、徐々に民間事業としてシフトさせている事例もある。
- ・行政ができない部分について、いかに民間の力を取り入れて事業化していくか。

## 賑わいのある商店街をつくるには ～商工業事業者の減少～

### 町内商工業者の現状

- ・商工会では2か月に一度理事会を開催しており、毎回5～10軒程度の退会者が出ているが、新規加入者もあり会員数自体は横ばいである。
- ・宮代町には4つの商店会があり、にぎわっている商店街もあるが、百間新道商店街では会員数が10人を切っており、街路灯も撤去された。商店会を解体することも検討されている。

### 高齢者の外出支援で活性化

- ・高齢者の足、移動手段の支援が充実すれば商業活性化のきっかけにもなるのではないか。

### 起業・創業支援の充実

- ・杉戸、久喜、白岡、蓮田、幸手と合同で創業塾を実施している。創業塾を受講後に町内で起業すると支援が受けられることもあり、毎回すぐに定員に達するほど人気である。起業したいという方はいるので、そういった方々を町として囲い込むようなシステムや場を構築できないか。
- ・現状は創業塾出身者への制度融資の優遇、リフォーム融資の補助等がシステム化されているが、商工会だけの話ではなく、町全体としてそういった支援を展開できるように間口を広げていくことはできないか。
- ・店主の体力が限界で店を開けられないような場合は、例えば週替わりでやりたい人に店舗を貸し出したり、新たに商売をはじめたい方へのアドバイスを行うなど、起業を考えている人が参入しやすくなるような支援を担っていただくことができないか。
- ・新しい場所で商売を始める場合、認知や集客が一番問題になる。試しにやってみて自信がつけば店舗を借りて実際にやってみるといのも手だと思う。

### ○空き店舗の利活用支援

- ・アンケート結果で日常の買い物が不便であるという意見が多く挙がっており、また、空き家が増えている状況がある。地域ごとに必要な機能（パン屋、本屋など）について話し合ってもらい、戦略的に空き店舗を活用できれば面白いのではないか。
- ・店舗兼住宅の場合、人に貸すに貸せなくてシャッターが閉まっているというパターンも多いため、自治体や商工会で店舗部分のみを貸し出せるようにリフォームの補助をするという支援も考えられる。
- ・今後公共施設を集約・再編を考える機会があれば、空き店舗に行政の出張所を設置するなどの活用方法も考えられないか。

### 事業承継・後継者育成

- ・後継者不足の面でも身内以外で事業を引き継いでくれる人を募集するなどの支援があれば。

- ・後継者がいなくて事業承継ができず廃業に至るようなケースへの対応として、自治体が仲介し、3か月や半年間など長期インターンの受け入れをしている事例がある。インターン期間は行政で給与面の補助を行う。そういった仕組みがあれば起業する側ははじめやすいし、元々の店舗としての認知も引き継げる。先ほどの創業塾と組み合わせると、地域で足りない業種に絞って募集するなどマッチングできれば効果的な取り組みになるのではないかと。

#### ○魅力ある商店の集積、「商店街」の捉え方について

- ・昔は商店街という大通りを歩いて買い物していたイメージだが、今はあまり歩いて買い物をする人もいない。通りや道といった形態にこだわらず、ある種商店街モールのようなこだわり個人商店が集まった形態の場所があればいいと思う。
- ・駅前通りは通勤時間帯しか人が通らない。東武動物公園に来る方向への店なら可能性はあるかもしれないが、日常の買い物をするような商店街にしていくのはピンとこない。魅力のある店は車を使ってでもいくと思うので、そういった店が集まっている場所があれば。
- ・最近は Youtuber が紹介していた店に行ってみる方もいるようだ。個人的には子どもが小さいので惣菜が買える所があればいいと思う。

### 子育てを地域で支えるためには ～少子化の進行～

#### 町の子どもの現状

- ・笠原小だけ人気があって児童が増えており、他の学校と格差が出てきているようにも思う。
- ・一時期は笠原小も児童が少なく、空き教室を福祉施設に貸していたりしたが、現状は児童が増えて空き教室がない。

#### ○子育て、教育・保育環境の更なる情報発信

- ・宮代町は待機児童がいないので保育園に入るために越してきている方もいる。幼児教育無償化の件も進んでいる中、そういった情報を発信していくことも重要だと思う。
- ・笠原小があるから越してきた方もいるようなので、特色ある施設や学校教育に関する部分を宮代の魅力としてもっとアピールしていくことも必要か。
- ・各学校は建物の老朽化もあり適正配置の問題も出てきている。魅力的な学校があることは子育てには重要だと思う。
- ・例えばある学校は小中一貫で学力がつくなど、笠原小以外もそれぞれ魅力をつけさせて競わせるようなことも必要か。

#### ○宮代ならではの魅力のアピール

- ・山崎山で校舎を持たずに「森のようちえん」をやっている方が、本格的に土地を買って幼稚園をやろうと動いているという話も聞く。宮代の自然豊かな環境を活かして教育に結び付けようという方向性は、町としての売りになると思う。
- ・東武動物公園で、年齢制限を設けて宮代在住の子どもに対する年間パスポートの優遇ができないか。親が子供についてくると思うので売り上げも上がるのではないかと。

## 農業の維持、発展に地域でできることは ～農家数の減少～

### 農業・農家の現状

- ・結局農家数が減少しているのは儲からないから。農業は自然災害のリスクも高く、労働に見合う収益が得られにくいことが問題。町では農地の集約を進めており、集約した農地を法人に貸し出すなどの取り組みも行っているがなかなか難しい。
- ・昔から米農家をやっているような方は、機械が壊れたら辞めてしまう人が多いのが実状である。辞めたところはそのまま何もせず遊休農地化してしまっている。

### 観光農業の可能性

- ・観光農業は比較的利益率が高く、活動しやすいと聞く。宮代は都心から日帰りで遊びに来られる距離なので、イチゴ狩りやブドウ狩りができて、直売所でお土産が購入でき、カフェやレストランが併設されているようなところがあれば、高齢者やファミリー層に魅力的な場所になるのではないか。
- ・新しい村だけでなく町内の色々な場所で、様々な品目を揃えていく。例えば観光農業については新規就農者にやっていただくなど考えられないか。
- ・山梨県内のある自治体で町の宿泊体験施設に付随する市民農園を有名なシェフの方が借り、育てた野菜を宿泊客に収穫してもらって、採りたての野菜を調理して提供するビジネスをやっている事例がある。

### スマート農業、クラウドファンディング、シェアリングエコノミー

- ・農業はやはり身体の負担が大きい。トラクターの自動運転など、AIを活用したスマート農業に対する支援があれば参入する方も増えるのではないか。
- ・財政的な支援については、ふるさと納税やクラウドファンディングを活用するなど可能性はあると思う。
- ・農薬の散布や草刈りなどに使う器具を、農業法人等に引き受けてもらってシェアリングエコノミーの可能性が考えられないか。

### 新しい村の活用

- ・新しい村は駐車場も無料でカフェもあり、ワークショップが開催されているときなどはにぎわいも感じる。ただ、普段はあまり人がいないようにも感じていて、今後どういう方向を目指しているのかはわからない部分はある。
- ・新しい村で小学生は田植え体験をしているが、町外の方にはなかなか馴染みがないかもしれない。
- ・新しい村でキャンプはできないのか。昆虫採りやザリガニ釣りもできる。最近バーベキューはできるようになったようだが、バーベキュー客はあまり見かけない。
- ・キャンプと東武動物公園のナイトズーでコラボするなど可能性はないか。
- ・新しい村は閉まるのが早いイメージ。動物公園で遊んだ帰りだと寄れないのでは。
- ・有休農地をデータベース化し、新しい村で貸し出しの受付を行うなどシステム化できないか。その場合、新しい村が一旦借りて転貸するなど宮代式の方法を考えていく必要がある。

## 親しまれる公園にするには ～街区公園の有休化～

### ○地域のニーズに合わせた利用目的の変更

- ・児童遊園だから利用が少ないのではないか。ガーデニングができる公園など利用方法を変えてはどうか。
- ・児童がいないなら児童向けをやめて、例えば桜や紅葉を植えて自然を楽しめる公園にする。また、規模が大きい公園は樹木を刈ってしまって子どもがボール遊びできる公園にしたり、キャンプができる公園など、公園ごとに特色を持たせるのはどうか。
- ・防災公園として位置づけるなど、より住民のためになる公園として視点を変えていく必要がある。また、例えばはらっパークでは自然発生的にラジオ体操が行われている。近隣の高齢者がそういった活動を行う場として誘導していくことも考えてみてはどうか。